

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

### 【ドル/円 週足】



その後、米国の利上げを織り込む形で115円台を回復しましたが、3月のFOMCで利上げが実施されたものの利上げ見通しが変わらなかったことに対する失望で再びドルが軟調な動きとなっています。

さらに、トランプ大統領が大統領選の公約に掲げていた医療保険制度改革（オバマケア）の撤廃・見直しが頓挫したことで政権の政策運営への不透明感が高まり110円割れを試す展開となっています。

トランプ政権下での財政刺激策に対して大きな期待が持てなくなった場合には、ドルの大幅上昇というシナリオを見直す必要があるでしょう。

その意味では、引き続き、トランプ政権の経済政策の行方は最大の注目材料でしょう。

しかし、米国のファンダメンタルズを見るとほぼ完全雇用で経済は好調であり、FRBによる年内あと2回の利上げが予想される状況に変はないことを考えると、110円を割り込むような水準はドルの過小評価といえます。

したがって過度な期待の剥落によるドル売りが一巡すれば、押し目買いによりドルの下値は支えられ、再び上昇していくものと思われます。

ドルの上値がどこになるのかは、トランプ政権の財政政策しだいであり、政策発動が不発であった

# ドル/円相場のトレード戦略

場合の上値のめどは115円水準、公約より後退した場合は120円水準、公約を満たした場合は125円水準を想定しておきたいと考えます。

## ■ 短期展望

先週は、112円台後半で始まったものの、トランプ米政権の政策運営に対する不透明感が強まったことにより、リスク・オフの流れでドルは続落する動きとなり、週後半には強い下値抵抗だった111円半ばも下抜けてしまいました。

想定していた以上にドル買い持ちの調整圧力が強かったということでしょう。

今週も週初からドル売りが先行する動きで110円割れを試すムードとなっています。

短期的には、このドル売り圧力は継続し109円台に突入する可能性が高いように思われます。しかし、米国経済のファンダメンタルズを考えると110円以下を売り込んでいくことは難しいもの思われます。

したがって、今週は週前半に下値を試したとしても109円半ば水準では押し目買いにより下値を支えられるものと期待します。

ただし、ドルの戻りも短期的には限られたものとなると思われ、先週に跳ね返された113円の天井が意識されそうです。